

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム望		
所在地	長崎県南島原市南有馬町丁306-1		
自己評価作成日	令和5年1月 30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活出来る様支援している。又、利用者様のやりたい事が可能な範囲で実現出来る様努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは国道にほど近いため交通の便が良く、周囲には田畑が広がる自然豊かな場所に立地している。理念には、「自分がされて嫌なことはしない」を掲げ、職員は理念を念頭に入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の方と日常的に挨拶を交わしたり、近隣の農家の方から野菜の差し入れをいただくなど継続的に交流している。働きやすい職場環境の整備にも力を注いでおり、管理者をはじめ、法人の理事長も定期的に職員と面談する機会を設け、職員意見には迅速に対応し、就労意欲の向上にも繋げている。ホームの協力医が毎週の訪問診療と往診にも対応しており、入居者・家族の安心感に繋がっている。居室はフローリングと畳の部屋があり、入居者の生活スタイルや好みに合わせた居室づくりを行い、入居者が安心して寛げる空間となっている。入居者の笑顔と、温かい雰囲気が窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員の目につきやすい場所に貼って共有し、実践につなげている	ホームの理念「自分がされて嫌な事をしない。」を職員が業務中でも目に入る場所に掲示し、毎月の職員会議で実践状況を振り返りながらケアを行っている。介護を実践するにあたり、理念に沿ったケアができていないような場合は、職員が互いに注意し合いながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高校生の実習はコロナの状況のみを受け入れているが、コロナの影響もあり以前と比べると減っている	ホームは地域の自治会に加入はしていないが、地域住民との交流は図れており、日常的に挨拶を交わしたり、近隣の農家の方から野菜の差し入れをいただくなどホームの一員として地域に浸透している。近隣住民からホームへの入居に関する相談もある。コロナ禍前は地域の祭りなどにも参加しており、コロナ禍収束後の交流再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や来所され相談があった場合は、都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日常の様子を報告をしている。その中でアドバイスや意見を受けサービス向上に役立っている	コロナ禍により書面により運営推進会議を行っている。各委員へ資料を送付後、後日、管理者から委員へ連絡して意見を聴取している。会議の資料や委員からの意見をまとめ、入居者家族にも郵送し、入居者の情報や、ホームの運営状況について周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや疑問に思った事などは積極的に相談している	市の担当者とは日常的に連携を図っており、生活保護に関する問い合わせや、各種加算取得について電話したり窓口に出向いて相談し、ホームの現状を伝えている。市や県が主催する研修会へリモートで参加し、職員のスキルアップに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない様、又、身体拘束にならない様職員会議でも身体拘束について職員間でも話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するために起こりうる転倒などのリスクについて、予め家族へ説明し、同意を得ている。スピーチロック等、気になる言葉づかいは、その都度職員同士が注意し合い、また、管理者が職員会議等で指導している。定期的に身体拘束に関する内部研修や、外部の研修に参加し研鑽している。	現在、経過措置期間であるが、今後、身体拘束の取り組みに併せて虐待防止のための措置に関する事項についても指針等を整備し、運営規程にも明記して取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深める為に研修があれば積極的に参加している。虐待をしない事を当たり前と考えその為にどうすればいいかをスタッフ間でも話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がおり、分からない事や疑問に思った事は後見人の方に質問している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に利用者様やご家族様にしっかり説明し、理解して頂く様にしている。又、その時だけではなく日常の連絡の中でも疑問点や不安な事を尋ね、理解・納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、コロナ過で面会制限をしている為ご家族様の来所が減っている。利用者様の状況報告をする際に意見を伺い可能な範囲で反映している	職員は入居者との日常会話を通して要望や意見を伺っている。意見箱を玄関に設置しているがこれまで意見は挙がっていない。コロナ禍による面会制限もあり、家族とは電話でのやり取りが主となり、要望などが挙がるのが少ないが、ホームから提案するなど、入居者・家族の意見の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議の中で意見を聞く機会を設け、可能な範囲で反映させている。又、理事長や副理事長も定期的に施設へ来られ職員と話をされている	法人の理事長や副理事長がホームを訪問し、必要に応じて職員と個別に面談する機会を設けている。職員に対し理事長から意見を求められるなど、自分の意見を伝えられる風通しの良い職場となっている。職員の意見により雨天の送迎時に濡れないよう玄関に屋根を設置したり、車イスの方の出入り口を変更するなど、意見を取り入れ迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやる気を持って働ける様環境整備や労働条件にも配慮してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を援助するシステムがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修などに参加したり、他の事業所と連絡を取り合い、同業者の意見やサービス等のアドバイス・意見交換をしている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は不安になられる事が多い為、特に本人に寄り添って困っている事や不安に感じている事を受け止め安心して生活出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に利用者様の生活歴や要望を聞く場を本人も交え作っている。又、ご家族様が本人を前に言いにくい事などがあると、別に対応するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番困っていることは何かを考え、他のサービス等も検討しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事はして頂くだけでなく、「ありがとう」やねぎらいの言葉を忘れない様になっている。そうする事で一緒に暮らす者同士助け合って生活出来ているという信頼関係も築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に困り事や悩み事があるとご家族様に相談したり、希望があれば本人と家族の話し合いの場を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍という事もあり減って来ているが、可能な時は馴染みの方に来て頂いたり、出掛ける事で関係が途絶えない様にしている	コロナ禍により面会制限を実施している為、友人や知人と面会する機会は少ないが、手紙でやり取りしたり、電話を繋ぐなど、可能な範囲で馴染みの関係を継続できるよう支援している。コロナ禍前に行っていた家族と外出する支援も感染状況を考慮し再開していく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が上手くいく様職員が間に入ったりする事で関係や関わりが終わらない様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様から相談が有れば対応するなどの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの生活歴を頭に入れ本人の気持ちに寄り添うことで希望や意向の把握に努めている	入居時に本人及び家族へ生活歴等のアセスメントを取り、入居後には日常の会話から思いを汲み取るようにしている。把握した情報は口頭で職員に伝え共有を図っている。入居者がリラックスした状態で話ができるよう、夜勤時など一対一でゆっくと話せるような環境づくりを心がけている。	入居者の思いや願い、暮らし方の意向の把握に努めているが、把握した情報は職員が口頭のみで情報共有を図っている事が窺える。思いや意向は本人の状態によって変化するものであるため、口頭での情報共有に加え、記録としても残して随時更新し、共有するよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅支援事業所やご家族様からの情報を得て、これまでの経過や生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が何をどこまで出来るのか、動きや仕草など職員間で共有出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や担当者会議・申し送り等で話し合い、その時のお状態に合わせた計画を作成している	計画作成担当者が個人記録や職員からの意見をもとに、入居者の状態を把握して介護計画を立案している。介護計画は個人記録に閉じ、職員各自で確認し、情報共有を行うと共に、介護計画に基づいた適切なケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や利用者様の想いの訴えがあれば記録し申し送りや職員会議等で話し合い共有する事で、ケアや計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様から希望があれば可能な限り随時対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の支える地域資源は何かを考え、可能な限り祭りやイベントに参加出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人や御家族様の意向を踏まえ、かかりつけ医を選択している。受診には職員も同行し、かかりつけ医と連携が保てる様支援している	入居後、医療機関はホームの協力医へ変更する事も、入居前のかかりつけ医を継続する事もできる。協力医が毎週訪問診療に訪れており、必要時には往診にも対応し入居者・家族の安心に繋がっている。受診後、状態や内服薬等に変化があった場合は、その都度家族へ伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員と常に情報交換し、適切な受診や看護が受けれる様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、病院やご家族様と定期的に連絡を取り、状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に確認をとるが、その時だけで無く、状態に応じてご家族様と話し合い可能な限り希望に添える様に努めている	看取りに関する指針を整備し、職員へ定期的に看取りに関する研修を行っている。協力医と連携し、看取りが行える体制を整えているが、現在は看取りの希望者がいない状況である。入居時に家族へ看取り支援に関する説明を行い、本人が看取りの時期を迎えた場合はあらかじめ家族の意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、職員の目につきやすい所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震を想定し避難訓練を定期的に行っている。地域の方や家族の方にも緊急連絡先に入ってもらっている	コロナ禍の為、消防署立会いの下での訓練は実施できていないが、定期的に設備点検や自主訓練を実施し、有事の際には迅速に行動できるよう努めている。年間の訓練計画を作成し、月毎に安全点検・総合訓練・災害用備蓄品点検・通報訓練等を実施しており、防災への意識は高い。	避難場所や役割分担など、職員への周知状況に不十分な点が窺えた。有事の際に迅速に行動できるよう、避難場所や経路の確認等再周知を図ると共に、緊急時の職員の役割分担や指揮権についても再周知し、対応することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、声掛けや支援方法など考えながら対応している	入居者個人を尊重し、居室やトイレのドアを閉める、声掛けは入居者の耳元近くで行うなど、つい忘れがちな細かい言動にも配慮している。居室や入浴介助中など、職員と入居者が一対一で、且つ、リラックスした状態で会話ができるよう工夫している。	コロナ禍の影響により、職員は接遇マナー研修を含め各種研修へ参加することが難しい状況である。例えば、必須の研修に加え、今年度、職員が参加できていない研修(接遇マナー研修等)を、次年度の年間研修計画に組み込み立案するなど、今後の計画的な取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じて対応し、自己決定出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、利用者様の生活習慣や希望に近づける様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は馴染みの美容室に行かれている。行く事が難しい方も美容室に出張してもらっている。 洋服は利用者様に選んでいただき同じ洋服が続かない様声掛けもしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には一緒に調理して頂いている。 又、調理する事が難しい方でも調理方法のアドバイスを頂いたり調理に参加してもらっている	食事は1週間のうち2~3日分を業者へ外注し、4~5日分をホームで調理している。野菜の皮むきや、オヤツづくりなど、入居者の残存能力に応じて職員と一緒にやっている。誕生日には入居者のリクエストに応じて提供するなど、入居者が食事を通して楽しみが持てるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の病気や状態にもよるが、お茶ばかりでなくコーヒーやジュースも提供し、利用者様の好きな食べ物ばかりではなく野菜や果物等も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人ひとりに合わせた歯磨き・口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや尿取りパットを使用している方でも、排泄記録を活用し、定期的に声掛け・トイレ誘導をする様にしている	職員は排泄チェック表を用いて入居者個人の排泄の間隔を把握し、個別に声掛け・誘導を行っている。使用するリハビリパンツや尿取りパッドの種類については、毎月の会議時に全職員が意見を出し合い、適切な用具を使用できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な方は適度な運動をして頂いたり、野菜や乳製品を活用し便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日その時の状況にもよるが、利用者様から希望があると入浴してもらっている。バスクリンなども活用し入浴が楽しめる様にしている	入浴は週に2~3回を基本に行っており、入居者の希望に応じて入浴回数を変更できる態勢である。入浴剤を使用したり、お茶風呂にして入浴中に入居者と歌をうたったりしながら入浴を楽しめるよう工夫している。入居者の希望に応じて同性介助を行えるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者様一人ひとりの生活習慣に合わせた支援をしている。 一日起きている事が難しい方でも昼食後から暫く休んで頂くなど、出来るだけ日中に活動してもらおう事で夜間の安眠に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の処方リストを個人記録の見えやすい所にファイルしており、職員がすぐ確認できる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が自宅で生活されていた時の趣味や特技を活かし、出来る事をして頂く様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で密になる様な所は控えているが、出来るだけ施設にこもりつきりにしない様にしている。 職員会議で職員から提案があると、可能な限り実行している	日常的にホームの近隣で散歩したり、花見を行うなどのほか、入居者個別または数名で買い物に出かけるなど、コロナ禍でもホームに閉じこもらないよう工夫している。また、病院受診後にルートを変更してドライブするなどできる範囲で取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同行にはなるが、可能な方は買い物に行き自分で好きな物を購入したりされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られている方は用事があると掛けられたりされている。又、持って来られていない方でも施設の電話を使い連絡をとられている。 文字が書ける方は手紙を出したりもされる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日清掃し、清潔の保持に努めている。又、季節に応じた張り紙を貼る事で季節感を出す様にしている	毎日、共有スペースの掃除機かけと拭き掃除、手すりの消毒や換気など、ホームの清潔を保つと共に感染対策にも配慮している。壁面には入居者と一緒に作成した季節の飾りつけを施し、室内でも季節を感じる事ができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクレーションを行う時は毎回同じ配置ではなく、その時の利用者様同士の関係や状況を把握し利用者様が楽しく過ごせる様な配置や席にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き過ごしやすい様、使い慣れた物やお気に入りの物など、家族の方と相談し可能な範囲で持って来て貰っている	共用スペースと同様、毎日清掃を行い、清潔が保たれている。居室はフローリングと畳の部屋があり、入居者の希望に沿って部屋割りを行っている。居室でポータブルトイレを使う方には、ポータブルトイレに目隠し布を掛けるなど、プライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手引き歩行や手押し車、車イスの自走など出来る所はしてもらっている		